

# 愛媛中生(えひめなかと)

登録番号: 第4121号	山口勝市
登録年月日: 平成6年11月22日	来歴: 「南柑20号」と「パーソン
登録者: 愛媛県(愛媛県松山市一番町4-4-2)	ブラウン」の交雑珠心胚実生
育成者: 喜多景治 玉井健二 渡部悦也 別府英治 大和田厚	育成地: 愛媛県松山市(愛媛県立果樹試験場)

## 特性

### ■栽培特性

樹姿は開張性、樹勢はやや強い。枝梢の分岐角度や密度は「南柑20号」に比べて差がないが、葉身が大きく節間がやや長い。全体として早生温州と普通温州の中間的な樹相となる。苗木や高接ぎ後に発生する強い発育枝には刺を生じることがあるが、結実期に入ると刺の発生は見られなくなる。特に定植後の幼木の生育は旺盛で、樹冠の拡大が早い反面、結実性や果実品質が安定するのが「南柑20号」より数年遅れることがある。

高接ぎ樹では、結実当初から収量品質とも安定しており豊産性であるが、苗木から育成した若木では結実当初は隔年結果性が強く現れやすい。しかし、樹勢が落ち着いてくれば、摘果等による結実管理で十分コントロールできる。

### ■果実特性

果実の大きさおよび果形は、「南柑20号」とほぼ同様であり、玉揃いが良い。果皮色は濃橙色であり、果実の着色の進行は、10月中旬に着色し始め、11月中旬に完全着色となる。着色むらが多く、果梗部周辺の緑色の抜けも良い。果面は滑らかで果皮がやや薄い。このため「南柑20号」に比べると浮き皮の発生が少ない傾向にある。

果汁の品質では減酸の良さが本品種の身上である。糖度は「南柑20号」に比べてやや高い傾向があるが、高糖系と呼べるほどの差ではない。しかし甘味比の数値で比べるとその差は歴然としており、食べ比べてみるとはっきりとわかる差違がある。じょうのうが薄く違和感無くそのまま食べられる。

例年、愛媛県における収穫開始は、「南柑20号」より1週間程度成熟が早く、11月中旬以降となる。しかし、出荷前の予措が必要でやはり12月出荷が中心となる品種である。12月上中旬に食味のピークを迎えると思われるが、貯蔵果実の調査結果では、正月までおいて食味が狂うような心配はない。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

珠心胚実生の選抜育成による温州ミカンであり、病虫害の防除体系、施肥基準、その他の栽培方法については「南柑20号」に準じた管理で問題はないが、苗木育成や高接ぎに際して刺の発生した穂木を用いると、さらに長大な刺が多発し樹勢が落ち着きにくいので、増殖に際しては必ず刺のない穂木を用いるようにする。

### ■地域適応性

これまでの各地における試作の状況から、地域適応性はかなり広いと言えるが、地域よりもむしろそれぞれの園地の立地条件の方が品質に及ぼす影響が大きい。

親品種である「南柑20号」も適地の選定が重要な品種であるが、本品種の導入についてはさらに園地の条件を十分吟味し、気候が温暖で日当たりが良く、耕土の浅い排水良好な園地を選定することが肝要である。これらの適地では品質の優れた果実が生産されるが、水田転換園など排水の悪い条件下では淡白な品質の果実になりやすい。また、浮き皮の発生は「南柑20号」よりは軽度であるが、例年浮き皮が多発するような条件下には適さない。

(喜多景治)